

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 121号 ◆

-----2019-2-4◆◇

「逃げる」2月です。

新年がはじまったらあつという間に2月に。節分もすぎ本日は立春。春とは名ばかりの一番寒い季節です。

学校では入学試験のシーズン。受け入れの先生方は試験監督、採点など見えない場所での神経を使う作業が続きます。送り出す側でも、ぎりぎりまで進路指導が続くなど、生徒も大変ですが、先生方も大変な時期です。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

19年1月の活動やニュースを報告します。

【2】イベントカレンダー・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「リアペのすすめ」

【1】最新活動報告

■「先生のための経済教室（沖縄）」を開催しました。

日時：2019年1月5日（土）

場所：沖縄県立博物館・美術館の美術館・講座室

内容の概略：高校の先生を中心に25名が参加しました。

篠原代表の沖縄県の現状を踏まえた経済学習の在り方の講義、樋口雅夫先生（玉川大学）の新学習指導要領の目指すものの講義、奥田修一郎先生（大阪教育大学講師）による「社会保障と格差」の授業提案などが行なわれました。

詳しい内容はまとまり次第 HP に掲載いたします。

■「冬の経済教室 in 札幌」を開催しました。

日時：2019年1月26日（土）

場所：キャリアバンク職業訓練校教室

内容の概略：中高の先生を中心に関係者をいれて27名が参加しました。

鍋島史一氏（教育実践研究オフィスF代表）による、新テスト問題から授業改善に向けての視点と提言、奥田修一郎先生による「社会保障と格差」の授業紹介と

ジグゾー方式によるWS、新井(上智大学非常勤講師)による、金融の教え方と体験型の授業WSなど、内容豊富で密度の高い報告が行なわれました。

詳しい内容は、以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/2019Seminar/2019FuyukeizaiSapporo.pdf>

■東京部会(No.106)を開催しました。

日時:2019年1月29日(火) 19時00分~21時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

内容の概略:参加者 8名

(1)篠原代表から、沖縄と札幌での冬の経済教室の報告がありました。

(2)実践報告と討論が2件ありました。

・杉浦光紀先生(都立井草高校)から、3月12日の春の教室で報告する行動経済学に基づいた授業実践の報告とその検討が行なわれました。検討では、短い時間での報告となるので内容の取捨選択と、その実践がどのようなねらいで行われたのか、精選が必要になるとの指摘がされ、3月の発表までさらに検討を加えることとなりました。

・塙枝里子先生(都立府中東高校)から、身近な問いから社会問題を自分事として考える授業の提案があり、特にそのなかの労働市場を想定した「椅子取りゲーム」の紹介があり、検討が行なわれました。

(3)その他報告では、夏の経済教室の日程が以下のように決まったとの報告がありました。

8月5日(月) 大阪高校向け内容(国民會館)

8月6日(火) 大阪中学向け内容(国民會館)

8月8日(木) 東京高校向け内容①(東証ホール)

8月9日(金) 東京高校向け内容②(東証ホール)

8月19日(月) 東京中学向け内容①(東証ホール)

8月20日(火) 東京中学向け内容②(東証ホール)

プログラムは今後つめてゆく予定です。

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo106report.pdf>

■大阪部会(No.62)を開催しました。

日時:2018年2月2日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka62report.pdf>

【 2 】イベントカレンダー

<イベント予定です。(開催順)>

■「春の経済教室 in 東京」を開催します。(既報)

日時:3月16日(土)13時00分~17時00分

場所:慶應義塾大学南館4階445教室

テーマ:「行動経済学を経済教育にいかにかすか」

内容の概略と参加方法は以下のページからどうぞ。

<http://www.econedu.net/announcement/keizaikyousitu/2019%20keizaikyoushitu/20190316HaruKeizai%20final.pdf>

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.107)を開催します

日時:2019年2月27日(水)19:00~21:00

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟446会議室

■大阪部会(No.63)を開催します

日時:2019年4月27日(土)18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング17階

■札幌部会(No.20)を開催します

日時:2019年6月8日(土)14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム(予定)

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル5階

【3】授業のヒント「リアペのすすめ」

(1)リアペってなんだ

リアペとは、リアクション・ペーパーの略です。コミペ、コミュニケーション・ペーパーとも呼ぶこともあります。

これは、授業の後に感想やその授業で分かったこと、疑問などを書く用紙です。大学では出欠調査もあわせて、この方式で講義を行なっている先生方が増えています。

このリアペ、学生の反応を知るだけでなく、そこから、講義の内容を修正したり、発展させたりすることができる、なかなかの優れたものです。

中高の先生方でも、授業後に生徒の感想を書かせて、その反応をもとに次の授業を組み立ててゆくというスタイルをとっている先生方もいます。それもリアペ方式と言えるでしょう。

ネットワークメンバーでは、杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)が、生徒の

問いから授業を深めてゆく実践を続けています。杉田先生のリアペは「授業でわかったこと、分からなかったこと、疑問に思ったこと」を自由に書かせて、次の時間に提出させるやり方だそうです。

(2) 大学での一例

筆者の大学での講義では、授業終わりの10分をリアペ記入タイムにしています。その時は、それぞれの回のテーマに関するお題を出し、感想や意見を書かせる方式です。

実際には、講義内容が多く、押せ押せなので最後の5分程度しか書く時間がなく、学生さんからはもっと書く時間をよこせとの要望もです。

提出されたリアペは、まずざっと読み、面白そうなものをチェックし、さらに、それらを精読して、次の回の授業に何人かをピックアップして紹介します。授業の冒頭に、それらの意見の検討を行ない、場合によっては、書いた人間からさらに意見を聞くという形で深めることもあります。(だから押せ押せになってしまうのですが)

そんななかから、出てきたのが「教育系の学生はなぜ経済がきらいか」(教育学科の学生が、経済は競争で弱者排除の面が強く、教育の生徒を切り捨てないという方向から見ると好きになれないという意見に対して、経済学部がそれは違うのではと反論した)という論争です。

学生の最終レポートの感想や、最後の回のリアペには、毎回どんな意見がでてくるか興味深かった、自分とは違う学科の学生の発想が興味深かったなどが出てきます。また、自分の文章が載ったことはいうれしかったと素直な感想もありました。

講義をすすめてゆくなかで、だんだん学生の書く内容が深まるのを見ることができるのも、この方式ならではのメリットでしょう。

(3) 中高でリアペは可能か

大学でのリアペ方式は、確実に大学授業の質を変えてゆく可能性があります。

中高では、日常的に生徒とのコミュニケーションがありますが(クラス日誌、学級通信など)、教科内容に関するコミュニケーションは、かつては「授業ノート」スタイルを取る先生が結構いたのですが、今はあまり聞かなくなっているのも、それほど多くないかもしれません。

大学は一コマ90分ですから、リアペスタイルが可能になりますが、50分授業で毎回ということはできないのは当たり前ですから、大きな單元ごとに生徒のリアペを書かせるのがよいかもしれません。

その時、使えるのは200字作文用紙です。200字ならそれほど心理的抵抗なく、感想は書けますし、読むこともそれほど大変ではないでしょう。

なにより、生徒のリアペを何らかの方法でフィードバックすることができれば、それは大成功です。

観点別評価に振り回されるよりも、生徒と授業を巡って内容的なコミュニケーションを取ることが、生徒もそうですが教師の授業づくりへのインセンティブを与える一番の刺激になるのではと思われます。

(4) テストもリアペだ

リアペに関して広げると、テストも生徒との対話になります。だから、センター試験のようなマーク式は、採点者は楽ですが、生徒の顔が見えません。全てを記述式ということも現実的ではありませんが、テストを通して、自分の授業がどう受け止められているのかを確認する。それをもとに出来た、出来ないではなく、何が足りなかったのか、何を補充したら良いのかを考える。そんなテストは、リアペそのものでしょう。

ちなみに、大学でのリアペ方式、非常勤の一コマを担当するだけだからできるのだということも付記しておきます。大教室での多人数の講義で、多くのコマ数を担当しなければならない専任の先生方にすべてそれができるとは思いません。できるところからやれば良いんです。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

授業のヒントで、教科の「授業ノート」の話を書いたあとに、熊田亘先生(筑波大学附属高校)の『「おもしろ」授業で法律や経済を学ぶ』(清水書院)を手にとったところ、「授業ノート」を実践しているよという報告がのっていました。ノートを媒介として、生徒と先生のコミュニケーションの様子がとても良く分かる内容で、こんな実践が続いているのだとホッとしました。最近、あまり見ないと書いたのですが、全国ではどのくらい「授業ノート」が行なわれているか、興味深いところです。

読者の皆さんはいかがですか。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

=====
(C) Network for Economic Education ◆◇